

## 【第1章 貯信時代】

- ・ まかやら存せやないことは、「お金は汚い」といって「ジ」を捨てること。この「ジ」を捨てるに限り、僕らは挑戦できない身体のまま
- ・ クラウドファンディングは、信用のお金に換金可能な状態
- ・ 信用のお金は「お金が作られる」に及ぶまで。
- ・ 信用の稼取方は、嘘をつかないこと  
嘘をつくことで露出が増えたと、認知度は上がりかけた。人気度（信用度）は確率に落ちる
- ・ 嘘は、感情をなめる。環境にあてつかない



- ・ 今日「作りこえ」が「構築」になつてくる  
完成品を受け取るのではなく、完成したものを  
日常も達成感に西暦が刻まれている。



モノ消費からコト消費へと変わって  
こえの究極形か？

お金とくっつくも体験したい。

A人にとっては報酬である。B人にとっては、  
お金とくっつくも体験したいことと「  
成立可。

ex 電車に乗りたい。半信半疑でいいから

- ・ 自分で発信して信用が積まれる。積まれた信用を換金  
できるようにする。

・ お金は 29 年ほど前、自分で作った時代になった。



優秀な人材は「給料」で釣られるようになった。

優秀な人材が 集まってきた。高い給料でもら

うことが 自分でもらった。『常に面白いことしてやる』

『面白』 だった。



会社は、社員に対して、『面白いことできる環境』

を提供できるように。それが 仕事になった。

『社員に使う会社』 になった。『社員に使える』

会社』 だった。

・ 今こうなると、もう「お金」が「信用」の代わり。

『信用』と『現金』の装置

- ・ 本邦企業への需要は、印籠と作りの生産能力で、急増を抑制せよとの声
- ・ 「あるが集まる場所を提供し、」と声は、舞い降りる。和製は全て跳ね返すのが理想的な輸出とインスタに発表する力が必要

・ 店検索から人検索へ

↑ 悪いと39知らない人も多少遠くても  
知ってる人の声が悪い。

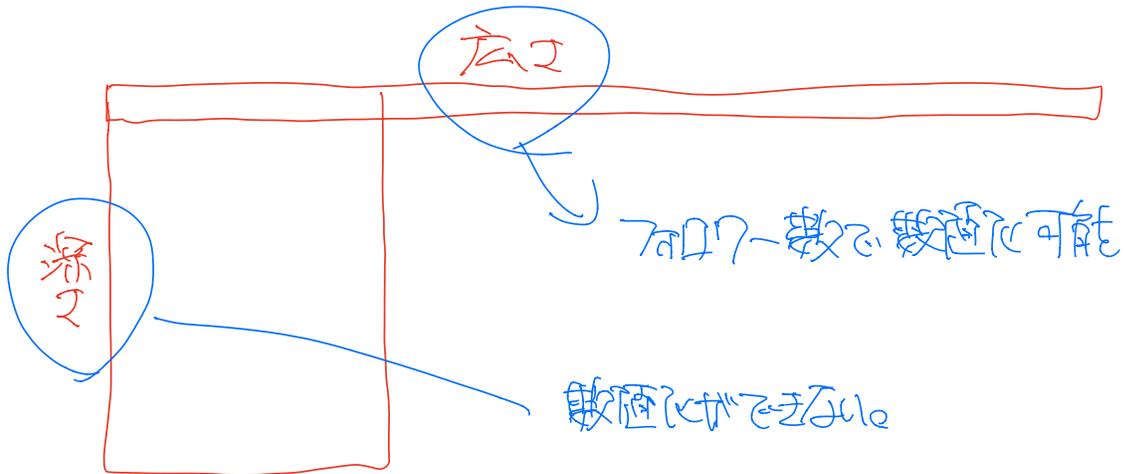
今頃のマーケティングの根本部分がおこなわれる。

人の「信用」が重要になる。

# 【第3章 新世界】

- ・ 2011年に「評価経済社会」という言葉があった  
= 貨幣の代わりに評価が流通する時代  
この時代は「お金持たず」ではなく、「共通の集め  
てお人」が社会を動かす。

「広さ」が広がらなく深さもあまる。



- ・ 人検索で店が選ばれる。「カリカエウ」の教習で店が評価され、そこで、その評価を受けた人が集まってきて、お店にお金が落ちる。

たに子にても、無名でも、誠実に仕事をする人が  
報われる世界

||

無名の正面者で勝つ世界

狭い深い愛する人達に囲まれてこそ  
できる世界